

大野木グラウンドワークだより

平成 21 年 7 月 8 日 発行 NO 34 発行責任者 藤田 博、伊藤 晋

7 月 5 日

くもりから晴れ、何と GW の日は雨が降りません。明日からはまた一週間雨という予報です。これも皆さんの精進のよさかも知れません。

本日のメイン作業は炭窯の天井ひびの修復です。武さんと晋さんが先日モルタルを流し込んでくれましたが、さらにきめ細かく点検、修復することに。火入れは翌日のこと、武さんが東本願寺に参拝されることから無理と判断。改めて日を設定して行うことになりました。

収納倉庫の扉取り付けは少し手間取りこれも無理しないことで、次回送りにになりました。

あまりきつい作業ではありませんが夏のこと、汗をかき水分補給は欠かせません。休憩時には何と冷えたスイカと洋子さんちのスモモが山盛り出されまして、食べたい放題ほっとしたひと時でした。

それから、それから お昼は季節の旬の野菜を中心にご馳走がずらり、そして冷やしソーメンが大皿にドーンと一人ずつ配膳されて夏膳をおいしくいただきました。

実乃里ちゃん、杏香ちゃん、弘聖君の三人がいろいろ手伝ってくれて、食後も公園で遊んでいて、「おっちゃん、押して、押して」とターザンロープで汗をかきました。

本日は新築の催しがあり、そちらの応援のためいつもの顔が見えなくても 16 名と 3 人の参加のもとがんばれたことに感謝します。

JR 東海道線の歴史から（深谷を通った鉄道の歴史）

1883年（明治16年5月1日）長浜～関ヶ原間 23km が開通

1889年7月1日（明治22年）馬場（膳所）～米原、さらに米原～長岡（近江長岡）を経て、深谷（大野木）に至る新線が開通。この時をもって、東海道線の新橋～神戸間の直通運転が開始されました。あれから120年です。

同時に長浜～深谷間は休止となり、明治24年1月に貨物線として運転が開始されたが、明治29年11月に休止となっています。

一方、長岡～深谷間の短絡線を経由して関ヶ原に至る旧線は、深谷から山間部に分け入る25%の急勾配が連続する難所で冬季には積雪量も多く、東海道線の最大のネックとなっていました。

明治32年10月15日（1899年）勾配緩和と将来の複線化を視野に入れた線路改良策として、現在の柏原経由の新線が建設され、長岡～深谷～関ヶ原間も廃止されました。

関ヶ原から深谷を経て春照に至る線路跡はほぼ国道365号線となっており、当時のルートは現在の地図上にはっきりトレースすることができます。

北国協往還と併せて幾多の歴史ドラマの舞台に大野木もあったのです。

ところどころに歴史遺構が残っていて、先人のご労苦を偲ぶことが出来ます。2年後にはNHKの大河ドラマの舞台に登場することになるやも。今一度、大野木の歴史のこと、現代への知恵と工夫の生かし方について、古老の方々から学ぶことの大切さを実感いたします。

（出展：中嶋良隆さま保存資料より）

7月1日ビオトープとファイヤーサークル周辺の草取りをさせていただきました。

女性陣、八重子さん、スミコさん、愛代さん、佳子さん、光子さんの5人。

「すもも」は鳥たちがついばんだようで、ほんの少しだけ残っていたものが赤くいろんでいたもので味見したところ甘くておいしかったとのこと。来年を楽しみます。

梅雨時の蒸し暑い中、午前中かけての草引き、ほんとにごくろうさまでした。

*

だよりは（財）淡海環境保全財団の平成21年度事業を活用して作成しています。

グラウンドワークは、住民・企業・行政とのパートナーシップによる地域の環境改善活動を通じて持続可能なコミュニティの構築を目指すものです。

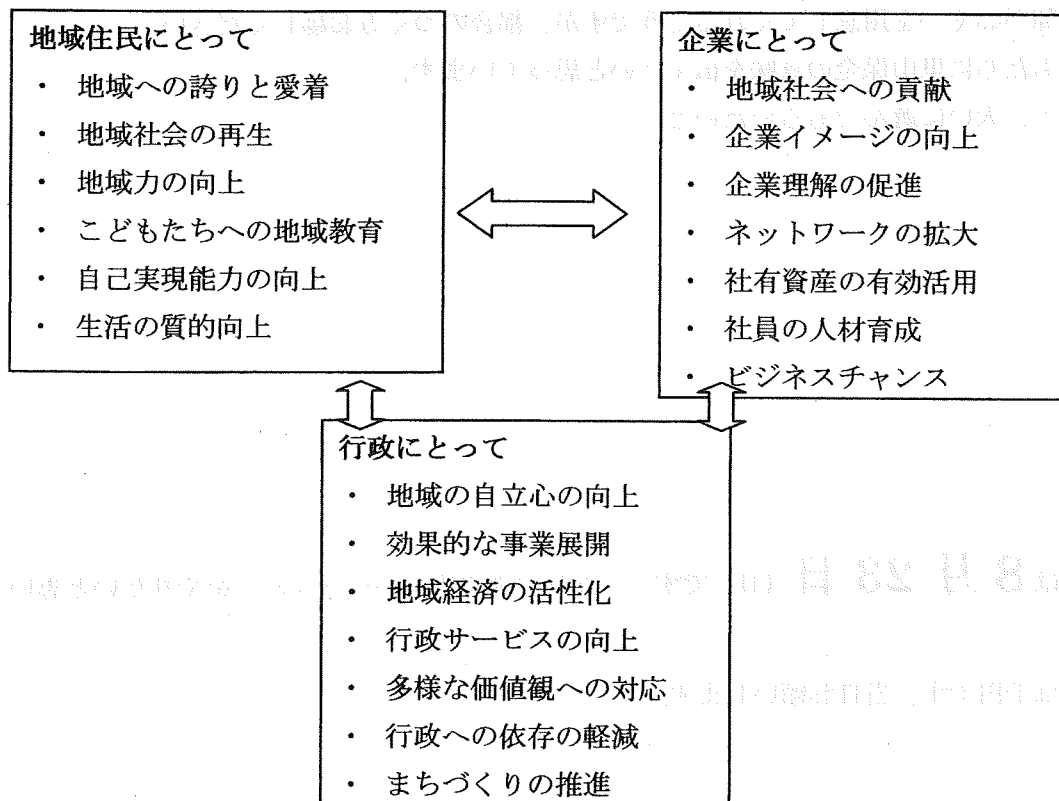
グラウンドワークは、1980年代初頭に英国内の地域社会の衰退を背景に、環境省によって設立された組織で地域環境の改善を通して経済および社会の再生を図ることを目的として、各地域に実働団体（グラウンドワーク・トラスト）が設立され、専門性を備えたスタッフと共に地域の再生と活性化に向けたパートナーシップ型のプロジェクトが展開されています。

日本では、1990年代に静岡県三島市や滋賀県甲良町、福岡県福岡市などで、住民のボランティア活動として、英国にならったパートナーシップ型での地域の環境改善活動が始まりました。

各地で取り組まれたパートナーシップ型の活動は、それまでの行政に対する依存体質や住民意識の低下、地域環境の悪化などの様々な課題をみんなで見つめ直し、お互いが対立するのではなく、対等な立場で協調を図り、協力しながら住民自らが行動することで、地域を再生し活性化することに成功しました。

現在では、このような取り組みが全国各地に広がり、それぞれの地域の課題に対応し、多くの地域主体とパートナーシップを組みながら、地域の活性化に向けた活動が展開されています。

グラウンドワーク効果



この項は JGA (財) 日本グラウンドワーク協会の冊子から引用しているものです。

梅雨の最中でも雨上がりの緑はすがすがしく、大峰山の稜線から湧き上がる雲の勢いは強く稲穂の黄緑と山の濃緑のコントラスト。さわやかな風に小鳥のさえずりがあり、手押し車で散歩する人の姿を見ると、大野木の豊かな自然の中に安心感を覚えるものです。

7月2日八相宮「半夏生祭」(中祭)にお参りました。

献撰、祝詞、玉串奉天、撤撰という一連の式の中で五穀豊穰をお祈りいたしました。これは5月の「さびらき」に始まり、6月の「さなぶれ」に終わる春の農作業を終えて、稲の育ちを祈った区切りの祭りであったようです。

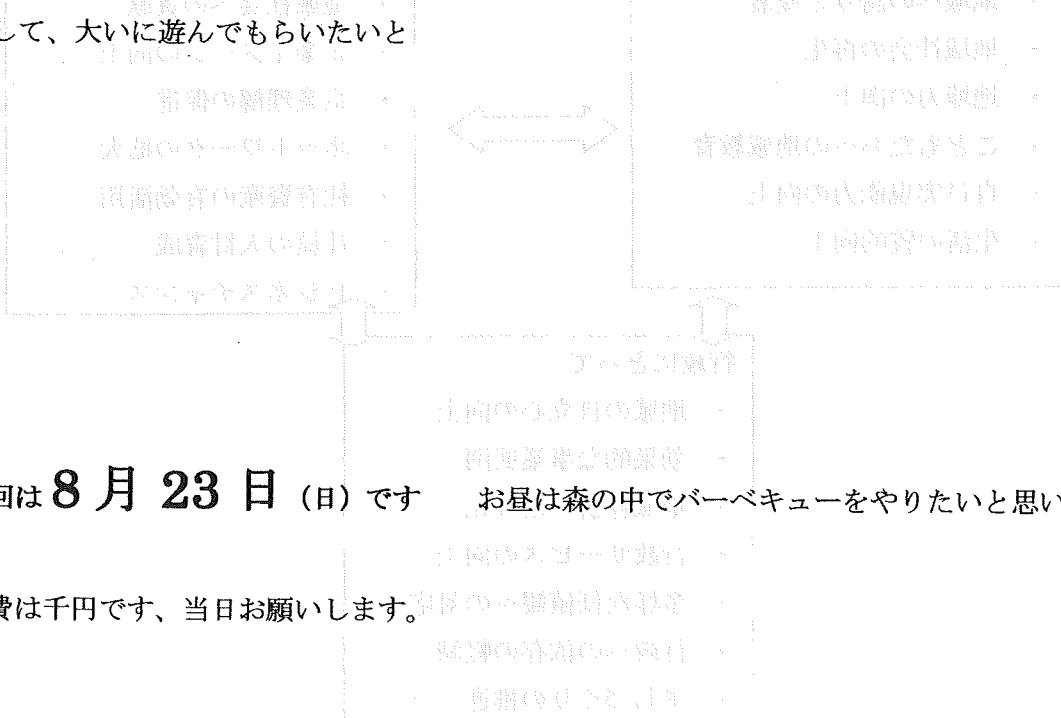
この時は田植え手間賃の清算日でもあって、各戸では牡丹餅を作って英気を養い農休みしたのです。いまはそのようなことはなく、どこかに何かなごりはないかを見回しますがこれというのは見当たらず、ただ神事のみが引き継がれているということです。

7月11日大野木子ども会一行が一学期末字別児童会の後、政所夢塾公園にやってきます。

女性陣がおやつを用意してくれるそうですが、都合のつく方お越しください。

こどもたちに里山保全の意味を伝えたいと思っています。

そして、大いに遊んでもらいたいと



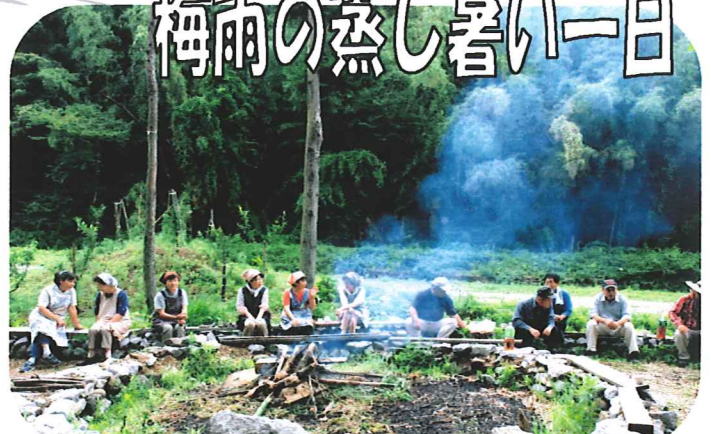
今回は **8月23日** (日) です お昼は森の中でバーベキューをやりたいと思います
会費は千円です、当日お願いします。

大野木グラウンワークだより

NO34

平成21年7月5日(日) 晴れ

梅雨の蒸し暑い一日



本日の作業は炭窯の手直し修理と物置小屋のトタン張り・トビラの取り付け

ファイアーサークルは絶えず煙が上がる、虫除けの為だ。



物置小屋の扉は2枚の観音開きです。

休憩の水分補給には豪華「スイカとスモモ」が振舞われた



ヤブカンパウが咲き出す



一部手直しされた炭窯も近日中に火入れを行う予定です

次回は八月二十三日です。よろしく

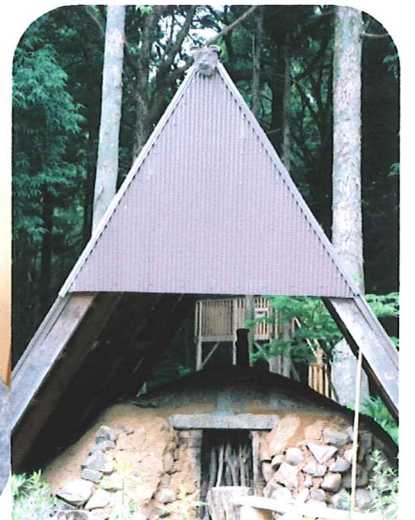


作業中の背後に実乃里ちゃんのブランコが迫る

次回は納涼バーベキューです、お楽しみに



採れたての旬の野菜を生かした手料理に食も進みます。ソーメンも美味しくておかわりしました。



三角屋根は公園のシンボル